

平成29年第10回 日高市教育委員会会議録

開催の日時	平成29年10月25日（水曜日） 午後2時01分から3時50分まで
会議開催の場所	市役所503会議室
会議の公開又は非公開の別	公開。ただし人事案件については非公開。
非公開理由	個人に関する情報が含まれるため。
出席委員の氏名	中村一夫（教育長）・矢次健志・島村由起男・神山好子
欠席委員の氏名	井上三枝
説明員の職氏名	教育部長 関口正明・教育部参事 島津芳久・教育総務課長 鈴木雅広・学校教育課長 稲村浩之・学校教育課副参事 松崎努・生涯学習課長 関根俊介・高萩公民館長 駒井優
出席した事務局職員の職氏名	教育総務課主幹 菊地誠治
傍聴者数	1人
会議資料の名称	会議次第・教育長報告・議案第31号・配布資料一覧

議題及び決定事項等

議案第31号 日高市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について  
原案どおり可決

会議の経過

1) 前回会議録の承認事項 出席委員異議なく承認

2) 教育長の報告の要旨

○校長会議、教育委員会部課長会議における教育長指示・伝達内容について報告した。

○その他、各部課長から、実施した事業等の結果と今後の予定を報告した。

3) 教育長報告についての質疑及び答弁の要旨

【教育長報告関連】

(委員) 青少年の主張大会及び家族ふれあいポスターコンクールの各学校からの応募数について、学校により応募数の差がありすぎる。自主性を重んじているのであろうが、学校によって、授業などで応募を促したりしているのか。

(教育部参事) 夏休みなどに様々な募集依頼が来ており、学校としては、県や市教育委員会が後援しているものなどは、優先ということではないが、取組みに向けてアドバイスをしているような現状である。依頼が来たものについて、全て子どもたちに提示をして、子どもたちの判断により取り組んでいる状況である。

(委員) 学習状況調査などもそうであるが、各学校の過去5年程度の取り組み状況

を比較して、分析することにより、各学校の学習の意欲なども見えてくるのではないか。

(教育部参事) 学校によっては、作文など全校で取り組んでいる項目もあり、一概に言えないが、このような取り組みを通じて、書く力などを向上させることにつながるので、うまく利用していきたい。

(委員) 全国学力・学習状況調査の日高市のまとめによると、国語において、全国並みという考えはあると思うが、算数で区分によっては、10ポイントほどの差がついている。こういったところの改善を早めに対処していかないと、取り返しのつかないことになる。

(教育部参事) 4つの区分で見ていくと、こちらとしても何故これほどの差が出たのかは分からないが、次にどうしたら良いのか考えるときに大事な指標となってくる。区分については、一つの問題が、複数の区分の対象と重複しているものもあるので、実質的に分析する際には、区分ではなく設問ごとに分析せざるを得ない状況である。区分ごとに重複している設問があるので、その区分の割合に対して、その設問が主要因となっているのか見極めが出来ないところはあるが、各学校に指導方法を含めて検討しているところである。

(教育長) 日常生活と関連付けた指導にしていかないと、本当の意味での理解にはつながらない。

(委員) 高萩公民館について、地域とのつながりなど、一番困っていることは何か。

(高萩公民館長) 利用団体などの高齢化が進んできており、新しい力を入れたいが、あまり増えないため苦慮している。

(委員) 子どもたちが勉強などに利用する場合など、空いている部屋があれば、子どもたちが使いやすいように、部屋を開放することなどを検討してほしい。

(高萩公民館長) 現在は、ロビーを開放して、勉強やゲームなどを行っている状態であるが、職員との交流を含め利用していただいている。少しずつ、子どもたちも利用しやすいように改善を進めているところである。

(教育部長) 高萩だけでなく、現在、各公民館で同様に、ロビーを利用したり、常設の机などを置いたり、夏休みなどは部屋を開放したり、いろいろな利用をしているところである。人口配分的にシルバー世代が多くなっていることは間違いないが、シルバー世代が主な利用をしているということは、マイナスイメージではなく、生涯学習の中で、活躍していただいていることは非常にありがたいことである。そこから、子どもたちとの地域のつながりなどが出来れば良いと考えており、公民館を介して取り組んでいけるように研究していく。

(委員2) 武蔵台の方では、公民館活動の中で、子どもたちのボランティアに対して名刺を作成してくれている。これにより子どもたちも責任感が生まれて、積極的に公民館の手伝いなどの活動をしている状況である。逆に、学校帰りに公民館で道草を食わないように立ち寄らないようにさせているという話も聞いている。

(高萩公民館長) 小中学校が近くであり、こういう子どもたちがいるなど、学校と

連絡を取りながら連携して進めている。臨機応変に、部活帰りなどで迎えに来てもらうときなど、外は危険なので、中に入るように促したりはしている。

(委員) 小中一貫教育について、学校行事などは、小・中合わせて開催するのか。

(教育部参事) 異なる学年間で実施することとなるので、様々な可能性がある。例えば、遠足であれば、高学年の子が、低学年の子の面倒を見たりすることも出来るようになる。いろいろな交流の形が出来るのではないかと考えている。

(委員2) 小中一貫教育での9年間のメリットを十分に活かすためには、現在、土曜授業が月1回であるが、やらなければいけない指導要領、カリキュラムの中で、土曜授業の日数を増やして余裕時間を生み出さないと、十分な効果が発揮できないのではないか。

(教育部参事) 県勤務時間条例によって、土曜日に勤務した場合、振替休を取ることになるが、現状では、平日に休むことは難しいので、夏休みなどの長期休業中に振り替えている状況である。振替日に指定できるのは、勤務した日の前4週、後16週となるため、土曜日の授業を増やしても、勤務した日の前にとれないと長期休業に合わせるのが難しいため、土曜日の授業を増やすことが難しい状況である。

#### 【教育長報告：資料1関連】

(委員) 高根小学校学校訪問において、指導案の形式が統一されていたとのことであるが、他の学校と比較して、具体的にどのような部分で優れているのか。

(教育長) 基本的にどの学校も統一しているが、各授業において目指すものなど、教師というか自分として、この部分を頑張るといふところをこちらで指定してこなかったが、それらを含めた指導案作りとなっていたものである。

(委員) 埼玉県都市教育長協議会で、学校における働き方改革に関わる緊急提言とあるが、主にどのような内容であったか。

(教育部参事) 例えば、登下校など、教員がやるのではなく、地域にお願いして、教員の負担軽減を図ることによって、勤務時間を意識した働き方を進めることなどが挙げられている。

(委員) 事務的な部分ではどうか。

(教育部参事) 学習プリントの印刷や授業準備等、教員の事務作業をサポートする人員の配置を国の予算で増やしていこうという動きである。

(委員) 学力向上へ向けてとあるが、講演で家庭環境が重要であると聞いたが、各家庭が様々である中、家庭教育について、学校から家庭に指導出来ないか。

(学校教育課長) 一昨年の教育委員会議で、家庭教育を高めるための施策を検討するようご意見があり、市教委として、リーフレット「生活と学びの8か条」を作成し、今年4月より実践している。これは、学校で取り組む項目を決めるのではなく、あくまで家庭で子供と話し合い、取り組みたい項目を決め実践し学校に提

出してもらっている。家庭の主体性を伸張し、教育力向上に資することを狙っている。

(教育長) 家庭にお願いする以上、教員もしっかりしなければいけないものである  
と考える。

#### 4) 議案についての質疑及び答弁の要旨

議案第31号については、非公開のため記載せず

#### 5) その他

##### (1) 次回定例会の日程等について

○11月定例会：11月16日（木曜日）午後1時40分から 委員了承

○12月定例会：12月21日（木曜日）午後1時40分から 委員了承

##### (2) その他連絡事項

○各公民館文化祭

高麗川・高麗川南・高萩公民館 11月4・5日（土・日曜日）

○入間地区教育委員会連合会視察研修

11月15日（水曜日）視察先【熊谷市教育委員会】